

平成 30 年度仁木町地域おこし協力隊活動報告書

氏名	前田 将克	活動年数	2 年
活動目標	日本版メドックマラソンの開催。走ることを通して地域活性化につなげたい。 お世話になった北海道に恩返しをしたい。		
活動内容	<p>主に行った大きく活動は3つあり、1つ目は、走るイベント（マラニック）の企画と運営を行っている。イベントを通して地域の魅力発掘と発信を行い、新たな交流人口を増やすことができ、今までにいなかった観光客を誘致することができている。また新聞やテレビなどに取り上げられ知名度向上にも大きく貢献した。</p> <p>2つ目は、ご当地グルメの開発を行い、ご当地バーガーを完成させた。試験販売や生産体制の構築を行い、イベント出店など道内、道外問わず積極的に行った。その結果、町内や道外へ仁木町の魅力を伝え、ワインやミニトマトの販路拡大や地産地消を実現できた。</p> <p>3つ目は空き家を活用した移住体験住宅の開設。</p> <p>銀山地区にある相続に問題のある空き家を取得し、改装工事を自己資金で行い、移住者の窓口になる移住体験住宅を 10 月にオープンし、11 月より 1 組の受け入れを行い、仁木町の暮らしや地域住民との交流の場も提供した。空き家を活用した移住体験住宅の開設で、中長期で移住検討をしている方の拠点を設けることが出来たことと町内の空き家問題の解決モデルを提案できた。また、別の空き家の処理で困っている人に向けて提案を行い、相続手続きの相談や活用に対応できる知識をつけた。</p>		
自己評価	<p>●一年間の自己評価及び進捗状況</p> <p>平成 30 年度の自己評価として、空き家業務の担当者として、空き家を活用した移住体験住宅をオープンさせることができ、移住希望者を受け入れることができた。しかし、走るイベントに関しては企画段階での段取りの手配が上手くいかず、参加者含めて協力者にご迷惑をおかけする場面が少なからず発生した。</p> <p>しかし、着実に地域の小さなイベントを数回実施したことで、仁木町の認知度向上やファンは確実に増えてきていると実感している。</p> <p>●活動初年度からの自己評価及び進捗状況</p> <p>当初から掲げていた走ることを通して地域活性化に向けての取組は実現に向かっていている。またイベント開催する事で仁木町の魅力を発信できていると実現していると感じている。しかし、イベント開催するにあたって複数人の調整の難しさを感じている。</p>		
抱負	マラニックを仁木町に根付かせ、継続できるイベントにする。 マラニック以外の新たなランニングイベントを立ち上げる。		
その他			